

第51回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょう。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



2015年度ニュースウィーク誌グリーン・ランキング

日本でも日本語版が出版されているニュースウィーク誌は、毎年、企業の環境貢献度に関するランキングを発表しています。今年、2015年度のランキングが6月4日に同誌のオンライン (<http://www.newsweek.com/green-2015>) において発表されましたので、今回はこのランキングを紹介いたします。

ニュースウィーク誌ではランキングを米国を代表する500社と世界を代表する500社のそれぞれで出しています。500社の基準は、2015年3月4日現在の株式時価総額の上位500社になります。したがって、米国の500社は米国企業の時価総額上位500社になります。そして、世界500社は世界の企業（含む米国企業）の時価総額上位500社にな

ります。ランキングでは、その方法の明確さや公平さが重要になりますので、後半で説明致します。まず最初に、皆様の関心の高いであろう日本企業の順位はどの程度であったのかを紹介致します。

アベノミクス効果で日本の株式市場も回復基調にありますが、世界の上位500社に入っている日本企業は33社で、全体の6.7%になります。日本企業のトップは21位のNTTドコモでした。100%のスコアのうち、74%を獲得しました。おそらく詳しい内容はニュースウィーク誌の日本語版に掲載されると思いますが、すでにオンラインで発表されているので、日本企業の上位10社とグローバルの上位10社とを各主要項目で比べてみたいと思います。

日本企業上位10社

順位	グローバル順位	企業名	エネルギー生産性	カーボン生産性	使用水生産性	廃棄物生産性	グリーン売上
1	21	NTTドコモ	8.6%	9.9%	10.8%	13.7%	16.0%
2	35	トヨタ自動車	12.8%	8.4%	9.6%	10.6%	8.1%
3	64	NTT	7.4%	5.5%	2.7%	12.3%	16.1%
4	92	JR東海	9.9%	9.6%	8.4%	5.2%	13.0%
5	107	三菱電機	12.3%	0.0%	5.0%	14.1%	12.9%
6	117	武田薬品	2.4%	5.9%	5.7%	10.3%	14.0%
7	118	三菱地所	4.4%	5.3%	7.5%	11.1%	10.0%
8	132	デンソー	5.5%	10.8%	6.6%	11.7%	7.0%
9	144	パナソニック	2.3%	6.6%	4.0%	9.7%	12.8%
10	149	日立	4.7%	6.4%	4.5%	7.0%	12.4%

(出所：2015年度ニュースウィーク誌グリーン・ランキング)

世界企業上位10社

グローバル 順位	国	企業名 (業種)	エネルギー 生産性	カーボン 生産性	使用水生産性	廃棄物生産性	グリーン売上
1	米	Biogen (ヘルスケア)	14.1%	14.2%	12.8%	11.3%	17.0%
2	アイル ランド	SHIRE (ヘルスケア)	13.2%	14.5%	10.1%	13.2%	14.0%
3	米	Allergan (ヘルスケア)	12.4%	13.1%	12.0%	12.6%	14.1%
4	英	Reckitt Benckiser Group (消費財)	14.3%	11.9%	13.3%	12.7%	11.8%
5	米	Adobe Systems (IT)	13.4%	9.1%	11.7%	9.4%	19.0%
6	スイス	Swisscom (通信)	13.6%	12.8%	9.9%	10.6%	14.6%
7	英	Unilever (消費財)	10.3%	13.2%	12.6%	14.5%	10.7%
8	米	Broadcom (IT)	13.6%	12.5%	13.7%	8.6%	13.0%
9	スイス	Roche Holding (ヘルスケア)	9.3%	12.4%	12.2%	12.2%	14.2%
10	英	BT Group (通信)	9.9%	13.4%	8.2%	12.8%	16.0%

(出所：2015年度ニューズウィーク誌グリーン・ランキング)

(注) エネルギー生産性は「売上高(米ドル)÷エネルギー消費量(GJ)」を基準に算出、カーボン生産性は「売上高(米ドル)÷温室効果ガス排出量(GHG CO2e)」、使用水生産性は「売上高(米ドル)÷総水使用量(m3)」、廃棄物生産性は「売上高(米ドル)÷(総廃棄物-リサイクル・再利用率) (メートルトン)」、グリーン売上は環境面での持続可能性や社会全体の健康に貢献する製品やサービスが売上高に占める割合

これら二つのランキングは、ともに2015年3月4日時点の世界の時価総額(米ドル換算)上位500社でランキングされたものです。そのため、昨今の円安の影響から、日本企業は33社と全体の1割にも足りていません。一方、米国企業は4割以上を占めています。グローバル順位で米国企業が4社入っているのは不思議ではありません。しかし、500社の中でたった4社のアイルランドや15社のスイスの企業がグローバル順位の上位10社に入っていることから考えると、日本企業も今後上位10社に入れる可能性はあります。グローバルと日本の上位企業を比べてみると、明らかに異なるのは業種です。グローバル順位の上位10社のうち4社がヘルスケアでした。とくにトップ3は、いずれもヘルスケアの企業です。一方、日本の上位10社のうちヘルスケアは武田薬品の1社のみです。ITと通信はグローバル上位10社にそれぞれ2社ずつ入っています。この二つの業種は日本の上位10社にも複数入っておりますので、ITや通信の企業の方が将来的にグローバル上位10社にくい込む可能性は高いのかもしれません。また、ランキングに使用された主要な項目をみていきますと、グリーン売上は、日本企業とグローバルの上位企業とは大きな差はありません。カーボン生産性や使用水生産性で差が出ていると考えられます。環境に優しく、社会面でも配慮したサービスや製品を提供することも大事ですが、事業活動の中で、温室効果ガスや水などを効率的に使うことを今まで以上に意識していかなければならないのでしょう。

しかし、このデータの問題点としては、売上高を米ドルに換算する一方、GHG排出量や水の使用量の単位は世界共通です。そのため、円安ドル高により米ドル基準でみた売上高が減少していることがマイナス要因となります。各企業の項目を自国通貨で計算した場合は、ランキングは変動するかもしれませんが、もちろん、世界の時価総額上位500社はほぼ全社グローバルなビジネスを展開していると想定されるため、米ドル換算でランキングを行っても、自国通貨で計算しても、順位付けは大きな差は出ない可能性もあります。

ニューズウィークのような世界的なメディアのランキングに入ることは、企業にとって大きなメリットがあると思われます。2016年以降も、今年以上の数の日本企業が世界の500社に入り、上位にランキングされるよう、各社には頑張って頂きたいと思います。

略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント；DWMインカムファンズ日本代表。明治大学公共政策大学院および法政大学現代福祉学部兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンスオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」(ピエトラ・リポリ著 東洋経済新報社)「暴走する資本主義」「格差と民主主義」(ロバート・ライシュ著 東洋経済新報社)「ジェンガ 世界で2番目に売れているゲームの果てなき挑戦」(レスリー・スコット著 東洋経済新報社)などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。